

# AM-FM STEREO TUNER KT-6005

取扱説明書



  
TRIO



## ソリッドステートAM-FMステレオチューナー

### KT-6005

お買いあげいただきまして誠にありがとうございました。

“チューナー”のトリオが豊富な経験と優秀な技術力のもとに、このクラスでは最高のチューナーを完成させました。LC型キヤリアリクアイルターの採用、MPXに高級DSD(ダブル スイッチング デモジュレーター)方式を採用し、広い帯域で、セパレーションの良さは抜群です。フロントエンドにはDual Gate FETの採用、シグナルメーターとチューニングメーターの2メーター方式の採用等々の新設計、新デザインです。

グリ・メインアンプKA-6004型とデザイン・性能とも完全にマッチさせてあります。ご使用に際し、本機の性能を十分に発揮させるために、本説明書を最後までお読みいただき、正しい使い方により末長くご愛用ください。

なお、本製品は厳重な品質管理のもとに生産されておりますが、万一運搬中の事故などにもないご不審な箇所、または破損などのトラブルがありましたら、お早めに購入店またはトリオ商事の各営業所へお申し付けください。

## 保証期間について

お買いあげいただきましたなら、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証期間中にもかかわらず、保証書に販売店印がありませんと実費のサービス料をいただくこととなりますので、ご了承のうえ十分ご注意ください。ますようお願いいたします。なお、本製品の保証期間は、下記のとおりです。

- 製品保証期間——お買い上げ後、2年間です。ただし、消耗品あるいは当社の責任として負いかねる故障については、実費となりますのでご承知ください。
- 出張料・送料——お買い上げ後、6カ月間は無料です。ただし、遠隔地域についての出張料は実費となります。

#### 1. SIGNAL, TUNINGの2メーターの採用

SIGNALメーターとTUNINGメーターの2メーター方式となり、ダイヤルスケールの下に2つ大型メーターがならんでいますので、同調が非常にとりやすくなりました。

#### 2. FMに周波数直線型バリコンの採用

周波数直線型バリコンは、容量が直線的に変化できるため、ダイヤルスケールも、従来の対数目盛から等間隔目盛になりました。

#### 3. 大型フライホイールの採用

チューニングには、大型フライホイールを採用し、今までにないスムーズな動きと、大型の2メーターそして等間隔目盛で、同調が正確にできます。

#### 4. MPXにDSD(ダブル スイッチング デモジュレーター)方式の採用

すでにKT-8001型に採用し、大きな反響を呼んだ、広い帯域で、セパレーションの良いDSD方式を採用し、100Hz～8kHzで38dBとこのクラスでは最高のセパレーションとなっています。

#### 5. LC型キヤリアリク フィルターの採用

ビート障害やひずみを激減させるLC型キヤリアリク フィルターを採用し、キヤリアリクエージは-65dB以上とれました。

#### 6. DUAL GATE FETとRF 2段のフロントエンド

イメーজ、大入力特性、選択度とFM直線4連バリコンの採用でフロントエンドは大幅に改善されました。

#### 7. フラックション インジケーター付

AM, FM, FM STEREO, MPX FILTER, MUTINGとダイヤルスケールの下に表示されますので、ひと目で動作状態が確認できます。

#### 8. 同軸ケーブルを簡単に接続できるアダプター付

75Ωの同軸ケーブルをアンテナ端子に接続するのは、なかなかむずかしいものです。KT-6005には簡単にとりつけられるアダプターホルダーを採用しています。

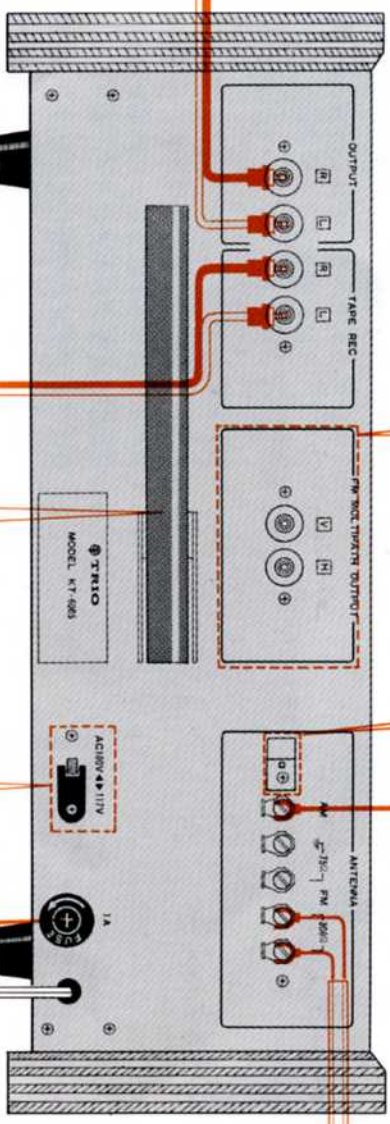
# 入・出力端子の接続方法

注：アンテナ、テープレックなどのINPUT端子へ接続するときは、R(RIGHT-右) L(LEFT-左)をそれぞれK.T-6005に合わせて接続してください。

マルチバース測定用端子  
5頁参照

75Ω 同軸ケーブルホルダー

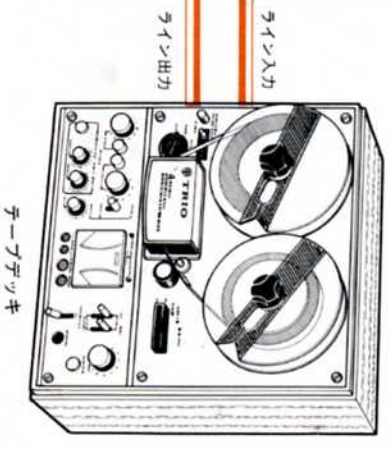
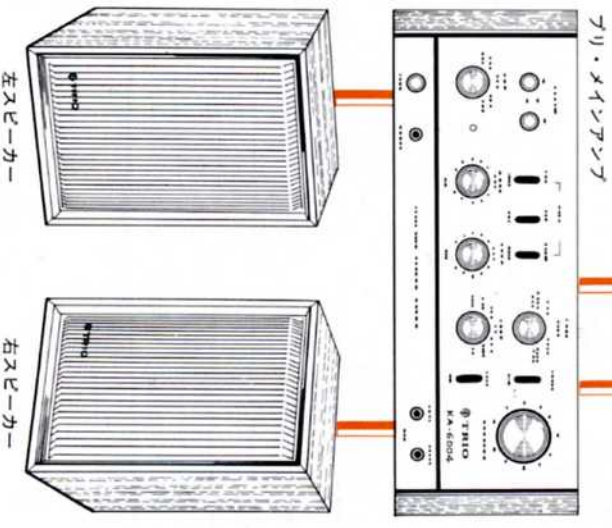
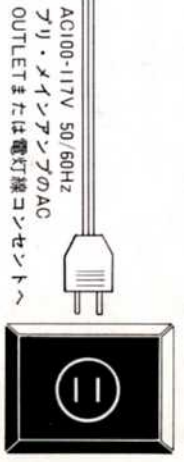
AM用外部アンテナ  
10m以上



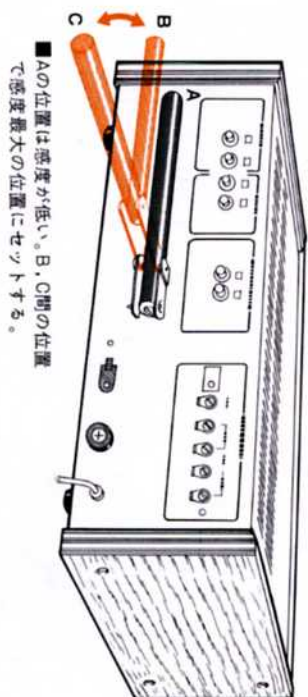
AMバースアンテナ  
4頁参照

電源電圧切替スイッチ  
7頁参照

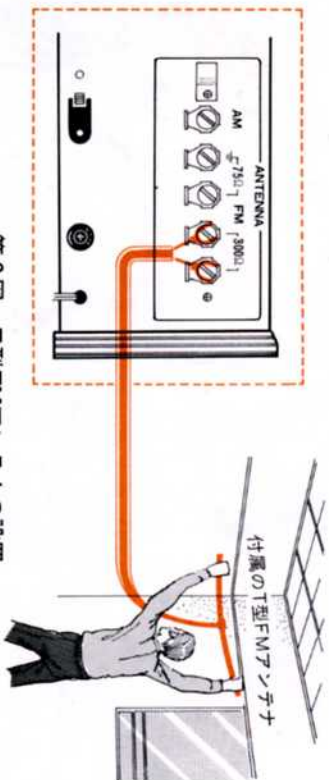
1A電源ヒューズ交換のしかたは  
9頁参照



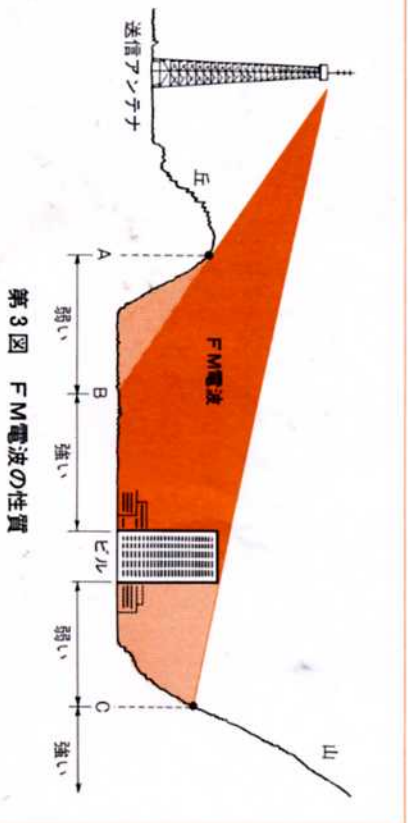
# アンテナの設置について



第1図 AMパーアンテナの使い方



第2図 T型FMアンテナの設置



第3図 FM電波の性質

## 1. AM アンテナ

本製品には、AM用高性能パーアンテナが取付けられていますので、特にアンテナを張る必要はありません。パーアンテナは、90°回転型ですのでもっともよく受信できる状態にセットしてお聞きください(第1図参照)。放送局から遠い地域で電波が特に弱い場合、または鉄筋ビルの中でご使用になる場合には、屋外に本格的なAM用アンテナ(長さ10m位)を設置してください(3頁接続図参照)。

## 2. FM アンテナ

### (A) T型アンテナ

電波の強い所では、付属のT型FMアンテナをご使用ください。このアンテナは、T型の水平部を水平になるよう両端を木ネジやくぎで止めてください。

FMの電波は方向性がありますので、水平に張った状態で180°回転させてもっともよく受信できる位置に固定してください(第2図参照)。

### (B) FM外部アンテナ

FMの電波は、テレビと同様に超短波と呼ばれる電波を用いており、光のように直進する性質をもっています。したがって、放送局に近い所が必ずしも電波が強いとはいえません。第3図に示すように、丘や大きな建造物の陰では電波が弱くなります。また、たとえ障害物がない場合にも、放送局から遠い位置にある所では電波が弱くなります。一般に放送局から2倍の距離になると電波の強さは1/4になり、つまり距離の二乗に反比例するといわれています。

このように障害物がある所、あるいは放送局から遠距離にある所では、外部アンテナ(5~7端子)を用いてできるだけ高く設置してください(第4図参照)。

このとき、本製品とアンテナの距離が離れているためアンテナ・ファイダーが30m以上も長くなってしまうときには、同軸ケーブルは「75Ω不平衡」と称する特殊コードを使ってください。ただし、この同軸ケーブルは「75Ω不平衡」と称する性質をもっていますので、アンテナと同軸ケーブルの間に、インピーダンスを合わせ変換トランス(マッチング・トランス)を使わなければなりません。このマッチング・トランスは、FM専用アンテナを販売しているお店で市販されておりますので、第4図Bを参照のうえ必ず設置してください。

FMの雑音の中で、もっとも悩みの多いものにイグニッション・ノイズ(自動車のエンジンより出る雑音)があります。この雑音が入る場合には、アンテナの

設置場所を道路からできるだけ離れた位置に定めてください。また、前述の同軸ケーブルを使用することによってもある程度までは防ぐことができます。

FMアンテナは、テレビのアンテナと共用のものもありますが、この場合にはテレビの画面に縞模様が出たり、KT-6005からシールドシールドという雑音が出たりしますので、できるだけ専用アンテナを用いるようにしてください。

**ご注意**—放送局に近い場所でご使用になる場合に、本格的な大型アンテナを请您先と電波が強すぎて過大入力となり、音がひずむことがあります。これはチューナーの故障ではありません。このような場合はT型の簡易型アンテナをご使用になるか、または最寄りのトリオ営業所、サービス・ステーションへご相談ください。

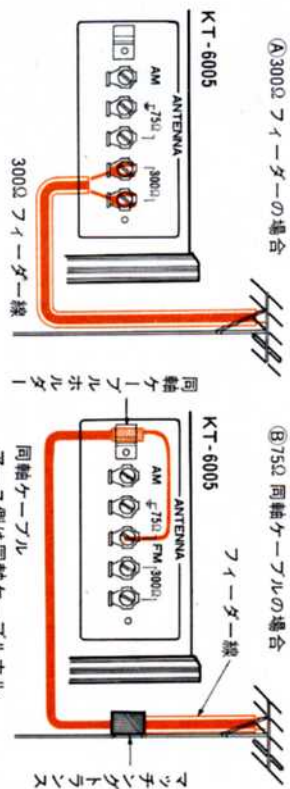
### 3. FM MULTIPATH OUT 端子利用法

FM電波は、前述のように光のような性質をもっていますので、障害物があつた場合は**第5図**のように反射してしまいます。この反射波と直接波が同時にアンテナへ入ってきますと、両波の干渉によって電波にひずみが発生します。これをマルチパス（多重反射）ひずみといいます。この対策としては、なるべく指向性のよいアンテナを正しく放送局の方向に向けるか、またなるべく反射波の影響のない方向に向ける必要がありますが、これは電波の強い方向とは必ずしも一致しませんので、SIGNALメーターをみながら、あるいは音を聞きながら正しいアンテナの方向を決定するのは大変困難なことです。

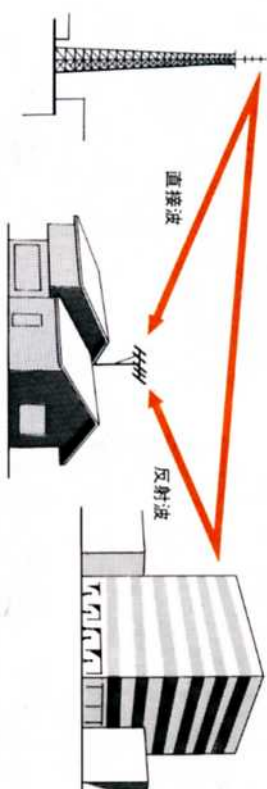
そこで本機は、FM MULTIPATH OUT 端子を設けてありますので、トリオ・オーディオ専用オシロスコープKC-6060型(別売り)、あるいは一般のオシロスコープをお持ちの方は、この端子へ接続して波形を観測することにより最もひずみの少ないアンテナの方向を決定することができます。

(1) トリオ・オーディオ・ラブ・スコープKC-6060型の場合は、KC-6060の取扱説明書に従ってください。

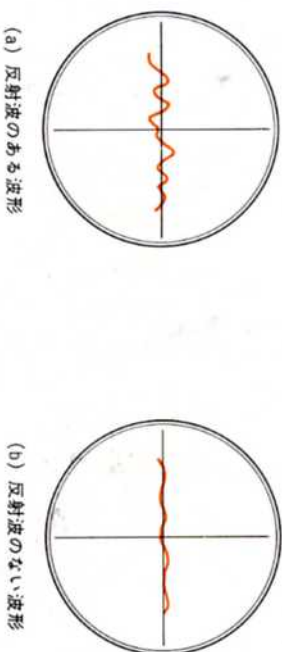
(2) 一般のオシロスコープの場合は、MULTIPATH 端子の“V”をオシロスコープの垂直軸に、“H”を水平軸に加え、**第6図**(b)の波形になるようにアンテナの方向を決めてください。どうしても(b)のような波形が得られない場合は、もっと指向性の鋭い多素子のアンテナをご使用ください。



第4図 FM専用アンテナの設置



第5図 直接波と反射波



第6図 マルチパス波形

# 各部の名称と動作説明



## ① SIGNALメーター

■FM受信の場合—電波の強さを表わすメーターです。正確な同調点は②TUNINGメーターをみて合せてください。  
 ■AM受信の場合—指針が最も大きく振れた点と同調点です。

## ② TUNINGメーター

FM放送を受信する場合は、指針が中央にくるように同調をとり、ますとともに歪の少ない受信ができます。なお、AM放送受信の場合は、このメーターは動きません。

## ③ POWER

電源スイッチです。電源スイッチでONになり再び押すとOFFになります。



## ④ LEVEL

背面パネルOUTPUT端子からの出力電圧を調整するツマミです。プリ・メインアンプに接続した他の機器と出力レベルが合うように調整してください。  
 0の位置では出力はOFFとなり、10の位置で出力は最大になります。  
 なお、TAPE REC端子からの出力はこのツマミで調整できません。

## ⑤ 標示ランプ

■AM-AM放送を受信している時はこのランプが点灯します。  
 ■FM-FMステレオ、FMモノラル放送を受信している時点灯します。  
 ■STEREO-FMステレオ放送を受信している時点灯します。  
 ■MPX FILTER—⑥ MPX FILTERスイッチをONにしますとこのランプが点灯し、MPX FILTERが動作中であることを標示します。  
 ■MUTING—⑦MUTINGスイッチをONにしますと点灯します。

## ⑥ MPX FILTER

このスイッチを押しますと、FM放送受信時に高音域の雑音をカットします。再び押しますとOFFになります。



## ⑧ SELECTOR

AM・FM切替スイッチです。目的に応じて各スイッチを押してください。  
 ■AM—AM放送受信。  
 ■FM AUTO—FM放送受信。モノラルとステレオが自動的に切り替わります。  
 ■FM MONO—このスイッチを押すとステレオ放送もモノラルになります。とくに電波が弱く、ステレオで雑音が出る場合はモノラルとしてお聞きください。



## ⑨ TUNINGツマミ

ダイヤル指針と連動しています。ノブを回して各放送局を選択してください。

